【他紙掲載論文】

湖山池湖口における塩分フラックスの特性

【水環境対策チーム】

森　明寛[1)]、成岡　朋弘[1)]、日置　佳之[2)]

山陰地方の汽水湖である湖山池では、日本海と繋がる湖山川に設置された水門を操作することにより海水遡上が制御されている。湖内の生態系に影響を及ぼす塩分に注目して、湖山池湖口における塩分フラックスの定量的な評価を試みた。2021 年 8 月 8 日から同年 10 月 21 日にかけて、電気伝導度ロガーとドップラー流速計を用いて、10 分毎に湖口での塩分濃度と流速を観測した。その結果、湖口における湖内方向への塩分フラックスは 0.09–5.82 kg/m²/s と試算された。これら特徴として、塩分フラックスが大きい場合、湖内と水門下流との間の水位差が大きく、水門開度が大きく、水門下流の塩分濃度が高い傾向が見られた。一方、塩分フラックスが小さい場合、水門開度が小さく、水門下流の塩分濃度が低く、逆流時間が短くなる傾向が示唆された。

1）鳥取県衛生環境研究所、2）鳥取大学農学部

投稿雑誌等
Laguna 30, 11-22, 2023